

小規模複式学級における、児童一人一人の「読みの力」を育成する学習指導法の研究

～国語科の学習指導をとおして～

始良市立永原小学校

1 はじめに（児童数37、学級数4、職員数12）

本校は平成28年度、児童数37名（1・2年は単式、3・4年と5・6年は複式）でスタートした。複式学級の指導については、4名の担任が本校に来て初めての経験である。これまで算数を中心にした複式学級の指導法について研究を進めていたが、昨年度から国語を中心にした研究に取り組んでいる。国語の研究は、過去の研究（本校は平成20～22年度に市の研究協力校であった）を参考にしながら進めている。また、子どもたちは3年生になって初めての複式授業を経験することになるので、低学年から複式授業のスタイルに慣れさせておくことも、研究の大事な視点である。



2 研究主題について（主題設定の理由等）

社会的な課題である「活字離れ」や「文章等を読み取る力」の低下は、本校でも課題となっている。全国学力・学習状況調査、NRT標準学力検査、基礎基本定着度調査の結果からも、「読むこと」の領域の落ち込みが大きいことが分かった。また、「読む」ということを、文章をただ読むだけで、書かれている内容まで「読み取る」というところまでいたっていない児童も多く、他の教科や練習問題、テストなどにも影響している。

以上のことから、国語力の向上を図っていくこととした。特に「読みの力」を育成することに重点を置き、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言語事項」の力をリンクさせることで、学習の基本である読み取る力を身に付けることができるのではないかと考えた。

3 研究仮説と研究内容

〈仮説1〉 国語科における学習指導過程や学習活動のあり方を工夫するならば、基礎・基本が身に付き、児童一人一人の読みの力が高まるのではないかと考えた。

【研究内容】

1 学習過程の工夫

- ① 読みの力が高まる一単位時間の学習指導過程の工夫
 - ・ 「めあて」と「まとめ」の一体化
 - ・ まとめにつながる発問の工夫（発問の精選）
 - ・ 児童が主体となる学習の進め方の工夫
- ② 児童が主体的な読みをするための学習計画の工夫
 - ・ 読書へつながる学習計画の工夫
 - ・ 複式学級における学習指導過程のずらし

2 基礎・基本を身に付けさせる学習活動の工夫

- ① 学習形態の工夫
 - ・ ペア、グループ、ガイド学習の工夫

〈仮説2〉 読書活動、表現活動のあり方を工夫するならば、ことばへの興味・関心が引き出され、児童一人一人の語彙力・表現力が高まるのではないかと考えた。

【研究内容】

1 表現活動の工夫

- ① 業間の充実（漢字タイム、表現タイム（音読タイム・作文タイム・俳句タイム））

2 家庭学習の充実

- ① 音読への取組や音読カードの工夫

3 読書活動の充実

- ① 「おすすめの本」の読破と感想文への取組推進
- ② 読書月間の充実
- ③ 読書環境の整備と充実

4 研究の実際

① 研究授業の実施

本校では、年間4回の研究授業を実施し、全学級の授業を全担任で見合っ、研究を進めている。そうすることにより、系統性や統一性を考えた指導のあり方が明確になった。また、低学年における複式指導を意識した指導の必要性も明確にすることができた。

② 一単位時間の基本的な学習指導過程

6回の研究授業（昨年度4回、今年度2回）を通して次のような一単位時間の指導過程で実践してきた。もちろん、複式指導の場合は「ずらし」が必要になってくる。その時間にどのような内容を学習させるか、また、ガイド学習についても算数科でもこれまでやってきたが、研究していく必要がある。



〈つかむ〉○前時までの学習の想起 ○学習範囲の音読 ○本時の学習のめあてをつかむ

〈見通す〉○学習の見通しをもつ ・「学習の進め方」確認 ・めあてに対する予想をもつ

〈調べる〉○一人調べをする（自力解決）

〈深める〉○ペアやグループで一人調べの結果を発表し合い深める

○全体で話し合いまとめる ○読み取ったこと、調べたことを確かめながら音読

〈振り返る〉○学習を振り返る ・自己評価 相互評価 ・感想 ○次時の学習確認

③ 一単位時間における音読の場の設定

子どもたちが「今日はこんな学習をするんだな」と学習範囲を確認することができるように導入段階で1回、本時で学習したことをもとに、自分のよさや友だちのよさに気づくことができるように終末段階で1回、最低2回の音読を位置づけようと取り組んでいる。しかし、高学年になると難しい場合も、工夫する必要がある。

④ 音読カードの統一

一昨年度までは、学級ごとに作成していたが、昨年度から全校で統一したものを使うことにした。チェックカードには音読した題名、声の大きさ、すらすら読めたか、家の人や担任のチェックした印の欄が設けられており、子どもたちは毎日提出する。また、裏には1年生から6年生の教科書に掲載されている詩や短歌・俳句等を印刷しており、音読や暗唱もできるようにしている。

⑤ 校内国語環境

本校では、これまで読書活動の工夫として、「おすすめの本」を選定し、それを読破することを目標に読書を勧めたり、年に2回「読書月間」を設けたりしている。昨年度から業間に「表現タイム」を設け、音読を中心に、まずはすらすら読めること、最終的には気持ちを込めた音読ができることを目標に取り組んでいる。

5 成果と課題

○ 全担任が研究授業をし、指導過程について確立できたこと。

○ 意識して音読指導に取り組んでいること。

△ 自分の考えを根拠を明らかにして相手に伝えたり、他の意見を聞いて新たに自分の意見をまとめたりして話し合いが進められるようにした。

△ ガイドの育成（ガイドに視点をもたせる。特に「練り上げる」過程でのガイドのことば）に取り組んでいきたい。



6 終わりに

本校は、「小規模校入学特別認可制度認可校」、「地域に根ざした体験活動」、「伝統芸能の継承

と発表」を特色ある教育活動として位置づけ、教育活動の充実を図っている。特に、伝統芸能である「西別府の吉左右踊り、太鼓踊り」、「辺川の棒踊り」については毎年隔年で運動会の種目に設定し、地域の方から何度も指導していただいている。運動会では地域の多くの方々に披露し、子どもたちに自分の成長を実感させてもらっている。今後も少人数・複式のよさを生かしながら研究を進め、学校、家庭、地域の協働を生かしながら教育活動を充実させていきたい。